

安倍晋三内閣による集団的自衛権行使容認に対する反対声明に係る宗務総長コメント

今回、安倍晋三内閣は、集団的自衛権行使容認を閣議決定しました。この重大問題を抱える「現代」に生きる私たちは、今こそ仏法僧の三宝に帰依する「仏教徒」として、この問題から目をそらすことなく、正見に依って的確に受けとめ、言動する使命と責任があるのではないかと思います。

仏教では、「国豊民安 兵戈無用」という教言に象徴されるとおり、仏の教えが生きてはたらくところにこそ、ほんとうに豊かで、戦争の無い世界が開かれると教えられます。それは、『仏説無量寿経』において教示される如来の本願に、どこまでも照らし出され、呼びかけられ続ける「われら」の問題であり、この私たちに、真に「われら」といえる世界が如何に成り立つのかという課題であります。

親鸞聖人が顕かにされた浄土真宗の教えは、自己関心に執着してみずからの愚かさ気づくことのできない私たちに、如来の本願に基づいて、人と生まれた意義を教え、丁寧な人間関係を開いてくださるものです。自らの正義に酔いしれ人間の関係と存在そのものを破壊する戦争をも正義の名の下に容認する。このような自分を善とし他を悪とする愚かな在り方に、目覚めなければならないと教えてくださるものこそ、南無阿弥陀仏であります。

こんにちの日本政府の判断はまさしく国民の危機であり、私たち一人ひとりが、みずからの課題として受けとめるべきものです。この問題のなかにこそ、私たちは、自他一如を説く仏の教えを聞き開かなければなりません。あらためて、一人ひとりが、今、浄土から、どのように呼びかけられているのか。何を教えられ、うながされているのかを、それぞれの生活の現場で語り合い、共に「同朋社会の顕現」に尽くしてまいりたく存じます。

2014年7月1日

真宗大谷派 宗務総長

里 雄 康 意